

木内慎一郎 笠井 利則 上間 健造

徳島赤十字病院 泌尿器科

## 要 旨

症例は65歳，男性．5年前より両側の無痛性陰嚢腫大を自覚していたが放置していた．その後，陰嚢部が徐々に腫大してきたため近医を受診．2010年5月，精査加療目的に当科紹介となった．初診時，右陰嚢部は乳児頭大に，左陰嚢部は小児頭大に腫大していた．単純CTでは両側陰嚢内容は均一な low density area を呈し，両精巣は正常サイズで特に異常所見を認めなかった．両側陰嚢水腫と診断し，両側陰嚢水腫根治術を施行した．内容液は両側共に褐色透明の漿液性で，右側が630ml，左側が900mlであった．巨大陰嚢水腫は，本邦では自験例を加えて21例が報告されている．

キーワード：巨大陰嚢水腫，成人，陰嚢腫瘍

## はじめに

成人の陰嚢水腫は泌尿器科日常診療の中で数多く経験する疾患であるが，巨大陰嚢水腫は稀である．今回我々は，両側巨大陰嚢水腫を経験したので若干の文献的考察を加えて報告する．

## 症 例

患 者：65歳，男性．

主 訴：両側陰嚢腫大．

既往歴：特記すべきことなし．

現病歴：2005年頃より両側の無痛性陰嚢腫大を自覚していたが放置していた．その後，陰嚢部が徐々に腫大してきて日常生活に支障を来すようになり，近医を受診．2010年5月19日，精査加療目的に当科紹介受診となった．

現 症：身長163cm，体重65kg．右陰嚢部は乳児頭大，左陰嚢部は小児頭大に腫大し，両側共に弾性硬で，圧痛は認めなかった（図1）．両精巣・精巣上体は触知しなかった．直腸診上，前立腺は胡桃大，弾性硬で，左葉辺縁がやや硬い印象であった．

検査所見：末梢血および血液生化学的検査において異常値を認めなかった．前立腺癌スクリーニングとして採血したPSAが4.34ng/mlと軽度上昇を認めた．

画像所見：CTでは両側陰嚢内に多量の液体貯留を認

めた．陰嚢の大きさは右が10×10×14cm，左が10×11×18cmであった（図2）．両精巣・精巣上体および前立腺に異常は認めなかった．

手術所見と臨床経過：両側陰嚢水腫および前立腺癌の疑いと診断し，同年5月25日に両側陰嚢水腫根治術および前立腺生検を施行した．陰嚢縫線の右脇に正中切開をおき両側の陰嚢皮膚と総鞘膜を剥離し，両陰嚢内容を創外に脱転させた（図3）．総鞘膜を切開し褐色透明な漿液性の内容液を右630ml，左900ml吸引した．両精巣・精巣上体に異常所見は認めなかった．総鞘膜と精巣固有鞘膜の処理はBergmann法にて行い，両



図1 術前の陰嚢部所見

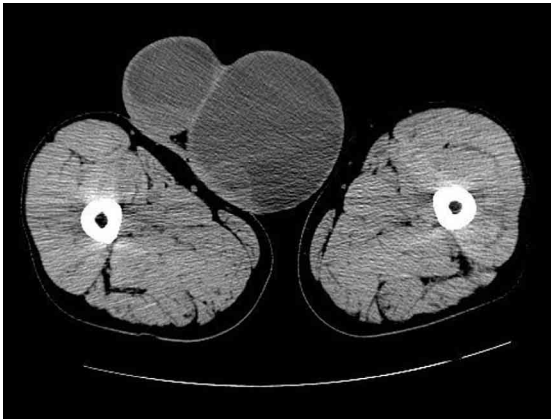


図2 初診時の陰嚢部単純CT



図3 術中所見

精巣を陰嚢内に戻した。左右陰嚢内にペンローズドレンを留置し閉創した。前立腺生検はエコーガイド下で経会陰的に行い、左右6カ所ずつ生検した。生検結果は悪性所見なしであった。

経過良好にて術後8日目に退院となった。術後20日目には陰嚢部は全体で大人手拳大まで縮小した。術後3ヵ月で再発はなく、外来通院を終了した。

## 考 察

陰嚢水腫は精巣固有鞘膜腔に漿液が貯留する疾患である。精巣固有鞘膜は発生学的に腹膜由来とされており、分泌および吸収作用を有している。正常時は分泌と吸収のバランスが保たれて少量の漿液が貯留するにすぎない。しかし、外傷、感染、循環障害、腫瘍などを契機に精巣固有鞘膜の病的状態が発生し、分泌が異常に亢進するか、吸収が障害されることにより精巣固有鞘膜腔内の漿液が増加し陰嚢水腫が発症する<sup>11)</sup>。

通常、陰嚢水腫の内容液が1000ml以上を巨大陰嚢水腫ということが多いようであるが、一定の見解は得られていない。自験例を含めた現在までの本邦報告例を集計した(表1)。2008年までに20例が報告されており、自験例は21例目となる。患者平均年齢は63.4歳(24~89歳)で、患側は右10例、左7例、両側例4例であった。陰嚢水腫の治療は根治術が基本であるが、報告例の内訳は精巣摘除が14例、陰嚢水腫根治術が7例であった。初診までの経過が長い症例で精巣摘除が選択された傾向があり、理由としては、巨大な水腫の圧迫による長期間の血行障害により精巣が萎縮していたため精巣摘除を施行した症例が多いようである<sup>11)</sup>。また、精巣腫瘍と合併した報告例<sup>14)</sup>(症例16)や、精巣腫瘍の約10%に陰嚢水腫を合併しているとの報告<sup>19)</sup>もあり、巨大な水腫の場合は腫瘍の発見が困難となる可能性が高く、通常の超音波検査に加えてCT、MRIなどの画像検査を考慮する必要があると考えられる。自験例では画像検査および術中所見共に両側精巣に異常は認めなかったため、定型通り陰嚢水腫根治術を施行した。

## 結 語

両側巨大陰嚢水腫を経験したので報告した。自験例は文献上21例目であった。

表1 巨大陰嚢水腫本邦報告例

報告者	報告年	患側	年齢	内容量 (ml)	内容液	経過年数	手術
1 佐藤ら <sup>1)</sup>	1937	右	44	1000	黄色・透明	5～6	根治術
2 松本ら <sup>2)</sup>	1957	右	77	2000	暗褐色	60	精巣摘除
3 岩田ら <sup>3)</sup>	1958	右	55	1500	暗褐色	10	精巣摘除
4 塚本ら <sup>4)</sup>	1960	右	70	1700	黒褐色	5	精巣摘除
5 藤田ら <sup>5)</sup>	1962	左	52	1900		20	精巣摘除
6 藤田ら <sup>5)</sup>	1962	右	75	2500	黄褐色・不透明	20	精巣摘除
7 高野ら <sup>6)</sup>	1977	右	85	2422	黄褐色・混濁	30	精巣摘除
8 白井ら <sup>7)</sup>	1979	右	65	2080	精子多数	20	精巣摘除
9 岡ら <sup>8)</sup>	1984	右	89	1000	膿性・陳旧血性	67	精巣摘除
10 沼ら <sup>9)</sup>	1987	右	58	1400	黒褐色	20	精巣摘除
11 桐山ら <sup>10)</sup>	1988	左	31	1000		2	根治術
12 平野ら <sup>11)</sup>	1991	左	77	2100	黄褐色・透明	3	根治術
13 平野ら <sup>11)</sup>	1991	右	77	1200	暗褐色・陳旧血性	15	精巣摘除
14 松井ら <sup>12)</sup>	1995	左	71	2000	黒褐色	10	精巣摘除
15 加藤ら <sup>13)</sup>	1996	左	65	3000	茶褐色・陳旧血性	55	精巣摘除
16 藤田ら <sup>14)</sup>	2002	左	24	3200	赤褐色	4	精巣摘除
17 杉本ら <sup>15)</sup>	2004	左	80	850	黄色・透明	8	根治術
		右		350	黄色・透明		
18 瀬川ら <sup>16)</sup>	2006	左	69	1300	黄褐色・透明	2	精巣摘除
19 増栄ら <sup>17)</sup>	2008	左	31	645	黄色・透明	18	根治術
		右		1050	黄色・透明		
20 井上ら <sup>18)</sup>	2008	左	83	350	褐色・透明	5	根治術
		右		650	黄色・透明		
21 自験例	2010	左	65	900	褐色・透明	5	根治術
		右		630	褐色・透明		

文 献

- 1) 佐藤正市：大ナル陰嚢水腫の1例. 皮泌誌 41：178-179, 1937
- 2) 松本忠夫, 手束 尚：巨大なる陰嚢水腫の1例. 日泌会誌 48：410, 1957
- 3) 岩田正三, 岡山誠一：陰嚢水腫. 臨皮 12：5, 1958
- 4) 塚本俊雄：コレステロールの析出を見た陳旧性陰嚢水腫の1例. 日泌会誌 51：1151, 1960
- 5) 藤田幸雄, 柳瀬巧一, 川島愛雄：巨大な陰嚢水腫の2例. 日泌会誌 53：897, 1962
- 6) 高野 崇, 森下英夫：巨大陰嚢水腫の1例. 日泌会誌 68：999, 1977
- 7) 白井千博, 庄田良中：巨大陰嚢水腫の1例. 共済医報 23：50-52, 1979
- 8) Oka M, Nakashima K, Hamada Y: Post-traumatic hydrocele with calcification of tunica vaginalis. Nishinohon Hinyokika 46：941-943, 1984
- 9) 沼 秀親, 坂本修一, 伊藤浩紀, 他：巨大なる陳旧性辜丸水腫の1例. 泌紀 33：1500-1502, 1987
- 10) 桐山 功, 鈴木 誠, 石井泰憲：巨大陰嚢水腫の1例. 埼玉医会誌 23：481-483, 1988
- 11) 平野章治, 川口正一, 美川郁夫, 他：巨大陰嚢水腫の2例. 泌紀 37：195-198, 1991
- 12) 松井瑞子, 平瀬雄一, 山道 博：フィラリア症が疑われた巨大陰嚢水腫の1例. 日形会誌 15：818-823, 1995
- 13) 加藤隆一, 高木良雄, 赤樫圭吾, 他：巨大陰嚢水腫の1例. 日形会誌 15：818-823, 1995

- 腫の1例. 道南医誌 32:84-86, 1997
- 14) 藤田喜一郎, 永田政義, 遠藤瑞木, 他: 巨大な陰囊水腫を伴った精巣腫瘍の1例. 泌外 15:1248, 2002
- 15) 杉本公一, 兼子美穂, 松本成史, 他: 排尿困難を主訴に来院した両側巨大陰囊水腫の1例. 泌外 17:1143-1146, 2004
- 16) 瀬川直樹, 東 治人, 内本晋也, 他: 巨大陰囊水腫の1例. 泌外 19:641-644, 2006
- 17) 増栄成泰, 長谷川義和: 成人にみられた巨大陰囊水腫の1例. 泌紀 54:509-511, 2008
- 18) 井上省吾, 和気功治, 洲村正裕, 他: 両側性の巨大陰囊水腫. 臨泌 62:903-906, 2008
- 19) Gerber GS, Brendler CB: Evaluation of the urologic patient: physical examination, and urinalysis. Campbell's Urology 8<sup>th</sup> ed., p96, Saunders Co., Philadelphia, 2002

---

## BILATERAL GIANT SCROTAL HYDROCELE : A CASE REPORT

Shinichiro KINOCHI, Toshinori KASAI, Kenzo UEMA

Division of Urology, Tokushima Red Cross Hospital

A 65-year-old man visited our hospital because of gradual swelling of both his scrotal sacs over the past 5 years. Physical examination revealed that the right scrotal sac was the size of an infant's head and the left one was the size of a child's head. Computed tomography revealed a homogeneous low-density area in both the scrotal sacs, whereas both the testes were of normal size and did not have any abnormality. Bilateral giant scrotal hydrocele was diagnosed, and surgical excision was performed. We aspirated a transparent brown serous fluid from both the sides of the scrotum; the volume aspirated from the right side was 630 mL and that aspirated from the left side was 900 mL. To our knowledge, 21 cases, including this case, of giant scrotal hydrocele have been reported in Japan.

Key words: Giant scrotal hydrocele, Adult, Scrotal tumor

Tokushima Red Cross Hospital Medical Journal 16:41-44, 2011

---